

単元まるごと計画「行きたい国をおすすめしよう」（全8時間）

単元のゴール（can-do）：行きたい国とその理由を I want to go to / You can see [eat] / It's で伝え合い、旅行代理店になって相手が行きたくなる国を提案する。

評価規準 3観点（国研参考資料の文型で作成）

知識・技能	Where do you want to go? / I want to go to / You can see [eat] / It's などの表現について理解しているとともに、行きたい国とその国でできることについて伝え合う技能を身に付けている。
思考・判断・表現	相手に行ってみたいと思ってもらうために、行きたい国やその国でできることについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	相手に行ってみたいと思ってもらうために、行きたい国やその国でできることについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

◎＝記録に残す評価（方法つき）。◎のない時間は指導に徹し、記録に残す評価は行わない。

単元の流れ 全8時間

時	紙面	主な活動	帯（毎時間のはじめ）	評価
1	SO	先生の行きたい国の話を聞く（I want to go to に会う）＋世界地図で国さがし	歌／チャンツ	記録なし
2	SO	国名と見どころの言い方練習（絵カード）＋世界の国あてクイズ（活動1）	Small Talk①話題1（先生の行きたい国）	記録なし
3	YT	You can see [eat] の言い方＋感想 It's を重ねる	歌／チャンツ	記録なし
4	YT	Where do you want to go? — Why? のやり取り＋書きWS①	Small Talk①話題2（行きたい国とその理由）	記録なし
5	EC	旅行代理店の「おすすめカード」を作る（国1つ・見どころ2つ・ひとこと）	歌／チャンツ	◎ 行動観察（知技）
6	EC	旅行代理店ロールプレイ①（活動2・店員とお客をこうたい）→中間指導	歌／キーフレーズ暗唱	◎ 行動観察（思判表）
7	OH	世界の国のくらしを聞く（教科書OH）＋ロールプレイ②→おわりに行きたい国ランキング発表	歌／チャンツ	記録なし
8	OH	パフォーマンステスト（提案のやり取り）＋単元の振り返り	なし——テストに使い切る	◎ テスト（知技・思判表）＋振り返りカード（態度）



45分の基本形と運用メモ

45分の基本形 毎時間この流れ（先生は上から順に使うだけ）

分	やること	使う教材
0-5	あいさつ・歌	—（教科書付属音源）
5-10	Small Talk／チャンツ	Small Talk台本①
10-15	語彙の練習	絵カード
15-17	めあての確認	—（黒板に提案の型）
17-37	主活動 ※途中で中間指導	活動シート1～2
37-45	振り返り（1行）・あいさつ	振り返りカード（汎用）

時間が足りないときは、ここを削る（優先順）

- 1. 国あてクイズ（第2時）はペア2巡でやめる（3巡目は朝の時間や雨の日の予備に回せる）
- 2. 旅行代理店は1回の相談を1分厳守。3店回れなくても2店でよい（延ばすと役のこうたいが消える）
- 3. おすすめカードの色ぬり・かざりつけは朝学習か宿題へ（授業時間では塗らせない）
- 4. OHの世界のくらしは「1つ気づきを言えたらOK」に圧縮してよい

準備物 印刷するだけ（準備5分）

- ☐ 絵カード（提示用1部＋班数分）
- ☐ 活動シート1～2（各時間、人数分）※早見表は単元中ずっと使うので1人1枚のまま持たせる
- ☐ 書きワークシート①（人数分）
- ☐ 世界地図（教室掲示のもの、または教科書の地図）※早見表の12か国に付せんを貼っておくと第1時が一気に速い
- ☐ 大陸の言い方カード（Asia / Europe / Africa / North America / South America / Oceania）を黒板に貼る
- ☐ パフォーマンステスト式（先生用・第8時）
- ☐ 振り返りカード（汎用の型・単元名だけ書き換え）

配慮が必要な子へ

- ・「行ったことがある国」は聞かない・言わせない。この単元は want to go（行きたい）で通す——海外に行った経験の有無や家庭の経済状況が話題にならない設計を守る
- ・行きたい国が決まらない子には、絵カードから「気になる絵」を1枚ひかせる→その絵の国が行きたい国になる（理由が先にある状態で話し始められる）
- ・国名が言えなくても、絵カードを見せる・早見表を指さす・日本語で言うのでよい。伝えることを最優先にする
- ・理由は You can see の1文で十分。It's まで言えたらおまけ、と最初に宣言しておく（文の長さで評価しない）

先生へ（この単元の勘どころ）

- ・You can は5年U7「Welcome to Japan!」で日本のすてきを紹介したときの形。あのときは〈自分たちの国の話〉、今回は〈目の前の相手のための話〉——同じ形の向きが変わるのがこの単元の核。第6時の中間指導では「お客さんの顔を見て You can ... と言えた子」を取り上げる（文の長さより向きが大事）
- ・地雷は海外旅行経験の格差。教科書が「行った国」でなく「行きたい国」で組まれているのはそのため。教師も「行ったことある人？」を口にしない
- ・国名の発音は先生の最大の不安どころ。ALTか音源に1回モデルを出してもらい、先生は完璧を目指さず堂々とまねればよい。子どもが見ているのは正確さではなく「英語を話そうとする大人の姿」